

平成26年度

橋梁技術発表会及び講演会

— 100年橋梁を達成する技術 —

参加費無料
定員 **200**名
申込先着順

会場

東建ホール・丸の内(東建本社3F)

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-1-33
TEL 052-232-8070

平成26年

日時

12

金

5

13:00~16:50

申込方法

- ①Fax. 052-551-6446(裏面の用紙に記載)
- ②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月下旬から)

申込期限

平成26年11月21日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 中部事務所
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3丁目14-16
(株)横河ブリッジ内 TEL 052-551-6446

継続教育

土木学会認定CPD(継続教育)プログラム
全国土木施工管理技士会連合会認定CPDSプログラム

※東京地区は 10月10日(金) 銀座プロッサムホール
大阪地区は 10月17日(金) ドーンセンター
東北地区は 11月 7日(金) 仙台国際センター
北海道地区は 11月14日(金) ホテル札幌ガーデンパレス
九州地区は 11月28日(金) レソラNTT夢天神ホール 開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

第1部:技術発表会のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望の方はダウンロードお願いします。

アクセス



●名古屋市中地下鉄 桜通線・鶴舞線「丸の内」駅下車
1番出口より徒歩1分

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 下 保 修

13:10~13:25

橋建協報告

広報委員会

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.日本と米国における
取り替え鋼床版事例の調査報告

床版小委員会 鋼床版部会 奥村 学

14:05~14:15

休憩

14:15~14:55

2.鋼コンクリート合成床版の
凍害に関する実験的研究

床版小委員会 床版技術部会 入部 孝夫

14:55~15:35

3.震災時における補修・補強事例
～応急対応から本復旧まで～

保全委員会 保全第一部会 柿沼 努

15:35~15:45

休憩

第2部:特別講演会

15:45~16:45

1.メンテナンス時代の
人材育成について

岐阜大学総合情報メディアセンター
(兼)工学部附属インフラマネジメント技術研究センター 准教授
村上 茂之



16:45~16:50

閉会の辞

公益社団法人 土木学会 中部支部 支部長 早川 高明

技術発表会概要

1 日本と米国における取り替え鋼床版事例の調査報告

取り替え鋼床版は、日本では古い基準で設計、施工された橋梁のRC床版更新時に、橋梁本体の耐震性と耐荷力の向上を目的として採用することが多い。米国では、それに加えコンクリート系床版の劣化損傷が問題となり、100年以上の耐久性が期待できる床版構造として採用している。

今後、都市部で計画されている大規模更新工事などにおいて取り替え鋼床版のニーズが高まると考えられるので、日本と米国における取り替え鋼床版の事例を調査した。

2 鋼コンクリート合成床版の凍害に関する実験的研究

鋼コンクリート合成床版は、下面からの水分の発散がないことからコンクリート中の水分量が多くなると考えられる上、内部に鋼材が多いことで温度変化が大きく、RC床版に比べて凍害の進行が早くなることが懸念される。このため、合成床版の耐凍害性を調査することを目的として、合成床版を模擬した供試体による凍結融解試験を実施し、水分量、内部温度、スケーリング量などを計測した。ここでは、これらの結果について報告する。

3 震災時における補修・補強事例

～応急対応から本復旧まで～

阪神淡路大震災以後、耐震基準の見直しに伴う耐震補強の効果により、先に発生した東日本大震災における鋼橋の被害は、津波によるものを除けば大きな損傷は少なかった。

しかし、我が国は地震国でありその発生頻度は高く、今後もその緊急な対策・対応、恒久的な補修・補強対策は必要不可欠である。また、橋梁の高齢化により保全の時代と言われている現在、震災時以外にも応急対応などが必要となるケースも予想される。

本報告は、過去の震災での経験を次に活かすために、応急対応から本復旧までの補修・補強事例を紹介するものである。

特別講演会

1 メンテナンス時代の
人材育成について

村上 茂之

岐阜大学総合情報メディアセンター
(兼)工学部附属インフラマネジメント技術研究センター
准教授

—学歴—

1991年3月 大阪大学工学部土木工学科卒
1993年3月 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了
1996年3月 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程
単位取得退学

—学位—

1996年9月 博士(工学) 大阪大学

—職歴—

1996年4月～1997年3月 大阪大学工学部 助手
1997年4月～ 岐阜大学工学部 講師
2005年12月～ 岐阜大学総合情報メディアセンター 准教授
現在に至る
この間
1999年10月～2000年9月
ベルギー・国リエージュ大学滞在(JSPS特定国派遣事業)
2000年4月～2003年9月
ベルギー・国リエージュ大学勤務(研究休職)

—専門分野—

橋梁工学、鋼構造学、維持管理工学

—所属学会—

土木学会、鋼構造協会

講演概要

社会資本メンテナンスの必要性が再認識され、その重要度が高まるに従って、メンテナンスに携わる技術者の確保が社会的課題となっています。これを受けて、岐阜大学では、「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)」の養成事業をH20年度から展開し、さらに本年度からは、長崎大学などと連携して、社会資本の維持管理を支える中核的専門人材を育成する枠組み作りに取組んでいます。

これらの事業概要を通して、メンテナンス時代の人材育成の方向性について紹介します。

FAX番号:052-551-6446

平成26年度

12月5日(金)

橋梁技術発表会

[中部地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無